

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (味覚編)
- 3 あそびうた 紙ふうせん
- 4 今月の詩 黄金虫 野口雨情
- 5 う た 合成のうた
- 6 ことわざ 蛙の子は蛙 堪忍袋の緒が切れる
門前の小僧習わぬ経を読む 背に腹はかえられぬ
- 7 う た 単位のうた
- 8 俳 句 服部嵐雪 松尾芭蕉 大谷句仏
- 9 かぞえうた 1台 1棹 1口 (車、たんす、鐘)
- 10 なぞなぞ
- 11 手あそびうた ちいさなにわ
- 12 音の絵本 ウグイス カッコウ メジロ
ホトトギス ブッポウソウ
- 13 イメージストーリー リード君 (第12話 恐竜国のトイレ)
(イメージしてみましよう)
- 14 今月のうた お医者さん
- 15 おはなし 白雪姫
- 16 童 謡 こうま
- 17 漢 詩 酒を勧む
- 18 百人一首 清原元輔 入道前太政大臣 後徳大寺左大臣
後京極摂政前太政大臣
- 19 復習コーナー
- 20 暗 示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

《^{かみ}紙ふうせん》

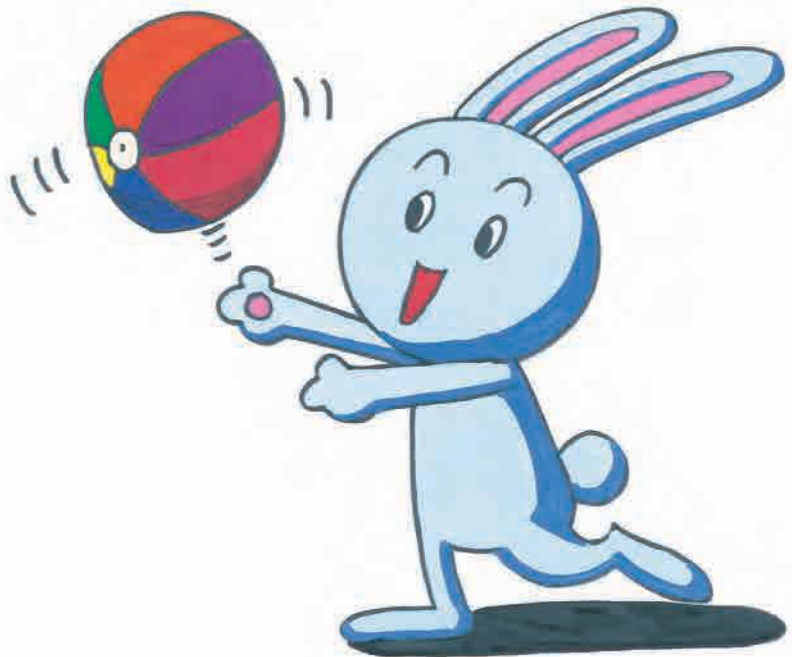
^{かみ}紙ふうせん トーン トーン たかく トーントーン

みぎてで トーントーン トントン

ひだりてで トーントントン

^{かみ}紙ふうせん トーン トーン

トントントントン トーントン



こがねむし
黄金虫

のぐちうじょう
野口雨情

こがねむし かねも
黄金虫は 金持ちだ

かねぐら た くら た
金蔵建てた 蔵建てた

あめ や みずあめ か き
飴屋で水飴 買って来た

こがねむし かねも
黄金虫は 金持ちだ

かねぐら た くら た
金蔵建てた 蔵建てた

こども みずあめ
子供に水飴 なめさせた



ことわざ

かえる こ かえる
蛙の子は蛙

子どもの才能や性質は親に似るものであること。



かんにんぶくろ お き
堪忍袋の緒が切れる

抑えに抑えていた怒りがついに爆発すること。



もんぜん こぞう なら きょう よ
門前の小僧 習わぬ経を読む

ふだん見たり聞いたりしていると、習わなくても、知らず知らずのうちにそれを覚えるものである。



せ はら
背に腹はかえられぬ

目の前の重大なことのためには、他を犠牲にしてもしかたがないことである。



俳句

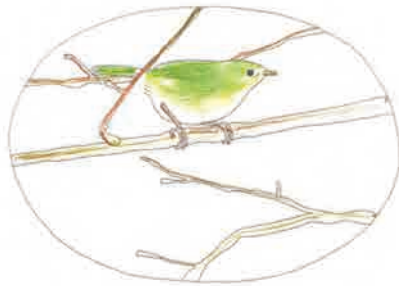
うめいちりん いちりん あたた
梅一輪 一輪ほどの 暖かさ

はっとりらんせつ
服部嵐雪



うぐいす もち ふん えん さき
鶯や 餅に糞する 縁の先

まつお ばしろう
松尾芭蕉



はるかぜ ほとけ きぎ かな くず
春風や 仏を刻む かなな屑

おおたに くぶつ
大谷句仏



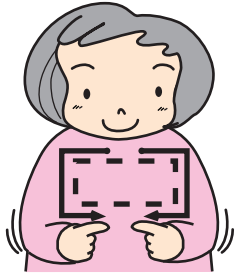
なぜなぜ

- 1 すましていると^み見えないけれど、にっこり^{わら}笑うと見えるものなあに？
- 2 うれしいと^{ほそ}細くなり、^{かな}悲しいと^{みず}水がでてくるものなあに？
- 3 ^{おとこ}男の人ならおかしくないのに、^{おんな}女の人^{ひと}がはやすとおかしいものなあに？
- 4 ^{かお}顔にある^こ小山にトンネル^{ふた}二つあるものなあに？



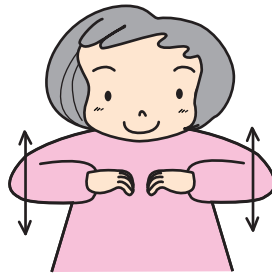
《ちいさなにわ》

① ちいさなにわを



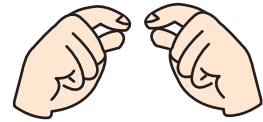
ゆびでしかくをつくる

② よくたがやして



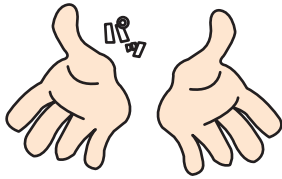
て しょうげ
手を上下させて
たがやす

③ ちいさなたねを



ちいさなたねを
つまむ

④ まきました



て
手をパッとひろげて
たねをまく

⑤ ぐんぐんのびて



て
手をあわせ、によろによろ
と上うへにうごかす

⑥ はるになって



て
手をきらきらさせながら
上うへから下したへおろす

⑦ ちいさなはなが
さきました



て
手でつぼみをつくり、
みぎひだりにうごかす

⑧ パッ！



て
りょう手ではなの
かたちをつくる

音の絵本

今月は、いろいろな^と鳥たちです。

- 1) ウグイス
- 2) カッコウ
- 3) メジロ
- 4) ホトトギス
- 5) コノハズク



コノハズク



ウグイス



ホトトギス



カッコウ



メジロ

《お医者さん》

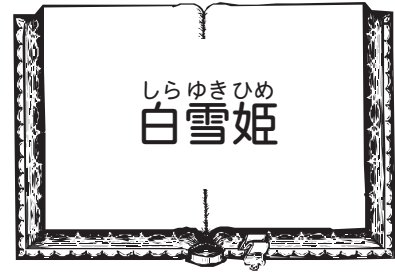
おせきがたくさん でてきたぞ
おねつもどんどん あがったぞ
こんなとき こんなとき
どうしたら いいのかな

ゆうき
勇気をだして 行ってみよう
びょういん
病院へ 行ってみよう

かんごし
看護師さんと お医者さん
みんな みんな やさしいぞ
なかだ
お腹を出して くち
口あけて
ほ～らほら もうおしまい

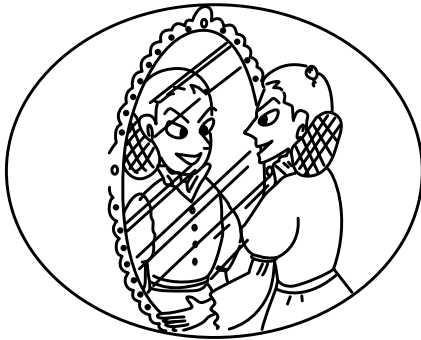
あとは僕の 勇気だけ
くすりの
薬を飲んで もう元気





「^{しら}ゆきひめ」は、^いじ^{わる}な^{ママ}はは^はこ^ろに^{ころ}殺されそうになったお姫様
をこびとたちが^{たす}けるお^{はなし}話です。
お^{はなし}話を聞いた^{あと}で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 ^{ママ}はは^はであるお^{きさき}后は、^{ほん}本当は^{どう}どういう^{ひと}人だったのですか。
- 2 お^{きさき}后は、^{なに}何を^も持っていましたか。
- 3 ^{しら}ゆきひめは、^{だれ}誰の^{いえ}家に行ったのですか。
- 4 ^{しら}ゆきひめは、^{なに}何を^たべて^{たお}れてしまったのですか。
- 5 お^{きさき}后は、^{どう}して^{たに}谷に^お落ちたのですか。
- 6 どうしたら、^{しら}ゆきひめ白雪姫は^め目を^さ覚ましましたか。



酒さけをすす勸すすむ

于う武ぶ陵りょう

人 <small>じん</small>	花 <small>はな</small>	満 <small>まん</small>	君 <small>きみ</small>
生 <small>せい</small>	発 <small>ひら</small>	酌 <small>しゃく</small>	に
	き		勸 <small>すす</small>
別 <small>べつ</small>	て	辞 <small>じ</small>	む
離 <small>り</small>		す	
	風 <small>ふう</small>	る	金 <small>きん</small>
足 <small>た</small>	雨 <small>う</small>	を	屈 <small>くつ</small>
る		須 <small>もち</small>	卮 <small>し</small>
	多 <small>おお</small>	い	
	し	ず	

契ちぎりきな

かたみに袖そでを
末すえの松まつ山やま

波なみ越こさじとは

(清原元輔きよはらのもとすけ)

花はなさそふ

嵐あらしの庭にわの雪ゆきならで

ふりゆくものは わが身みなりけり

(入道前太政大臣にゅうどうさきのだいじょうだいじん)

ほととぎす

鳴なきつる方かたを

ただ有あり明あけの
ながむれば
月つきぞ残のこれる

(後徳大寺左大臣ごとくだいじのさだいじん)

きりぎりす

鳴なくや霜しも夜の

衣ころも片かた敷しき
さむしろに
ひとりかも寝ねむ

(後京極摂政前太政大臣ごきょうごくせつしょうさきのだいじょうだいじん)



清原元輔